

## 12 【誠の宗教と社会倫理定義へのいざない】

【全4回】／開催方法：対面のみ

しゃく  
**釈**      ご      しん  
**悟**      震

公益財団法人  
中村元東方研究所  
常務理事  
中村元記念館  
東洋思想文化研究所  
副所長  
文学博士  
スリランカ国立ペラデニヤ大学  
客員研究員



受講料	会員料金：¥9,000	早割価格：¥8,000(納入期限：10月20日)
-----	-------------	--------------------------

### 【日程・時間】【全4回】

10月25日(日) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

10月26日(月) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

### ■受講に必要なもの

【テキスト】※講師が準備します

『宗教と社会倫理—古代宗教の社会理想』

著者：中村元著 出版社：岩波書店 出版年：1959

〈宗教はどのような社会理想を目指していたのか〉といういざないを、不動の根本仏教のみなもとを育む古代インドの思想により今によみがえさせる講義として昇華できることを大いに期待をいたしております。

日本において「宗教」という言葉は、社会的な事件が起きたときに否定的に取り上げられがちです。しかし、そもそも宗教には人々の幸福を願う理想があったに違いないと思います。そして今日の日本でも、政教分離の原則はあれども、宗教と社会・生活は密接な関係にあります。

宗教と政治／国家／経済／社会政策の関係や、インド宗教の根幹ともいべきヒンドゥー教や原始仏教が古代インド人の社会理想にどのように関わっていたかを含め、国家および民衆支配の真のリーダーは国家ないし社会においてどのような社会理想に従ったのか。あるいは仏教徒および釈尊は指導者層に如何なる態度で接し、どのような教えを説示したのか。あるいはインド中世では帝王を神聖な権威的存在とした今につながる思想があったのかどうか。「神々に愛され、敬虔な社会理想性に卓越した指導者」と呼称されるいざないを中村元博士がまとめあげた「不朽の名著」から紐解きたいと思います。

本年は先年につづき、インド中世では帝王を神聖な権威的存在とした思想はあったのか、なかったを「問題の由来」「バラモン教徒国家意識」「仏教徒の下した批判」の思想から導き出す誠の宗教と社会倫理の定義の中村元博士以外、どなたにも触れることが出来なかった真髓へのいざないを本講義ならであるからこそ実体験できるだろうと思います。

今年度はテキスト「第6章 帝王の権威と宗教」(286-336ページ)を使用します。テキストをお持ちでない方には講師が準備した資料を配布します。